

## 平成22年度第2回丸子地域協議会会議次第

平成22年5月21日(金)午後1時30分  
丸子地域自治センター3階第2会議室

### 1 開 会

### 2 あいさつ

### 3 自己紹介

### 4 報 告

- (1) 平成22年度当初予算における主な施策について(丸子地域分)  
【資料1】

### 5 協議事項

- (1) 専門部会等の分担について【資料2】
  - ・カネボウ食堂棟に関する専門部会
  - ・防犯灯のLED化に関する専門部会
  - ・依田川リバーフロント市民協働事業実行委員会への参画

### 6 その他

- (1) 次回会議の開催日について  
【予定】平成22年6月25日(金)午後1時30分  
丸子地域自治センター 4階 講堂
- (2) その他
  - ・平成22年5月1日現在の職員名簿

### 7 閉 会

平成22年度当初予算における主な施策（丸子地域の主な事業）

(単位:千円)

事業名	主務課	事業概要	予算計上額
わがまち魅力アップ応援事業補助金 【地域予算】	地域振興課	特色あるまちづくり応援事業 ・対象 NPO等の市民活動団体 個性あるふるさとづくり応援事業 ・対象 自治会・地区連合会等 地域予算分【丸子地域】2,300千円 ・補助内容 実践活動:1,000千円(限度額) ・補助内容 実践活動:1,500千円(限度額)	6,700
依田川リバーフロント市民協働事業 【地域予算】	地域振興課	依田川と内村川の合流地点の環境整備に向けた計画策定等 地域予算分【丸子地域】548千円	548
自治センターだより「丸子」発行費	地域振興課	丸子地域の市民に丸子地域の話・情報を発信する。	700
共同集会施設改修補助金	地域振興課	改築・丸子地域1自治会	606
防犯灯新設補助金	市民生活課	自治会が行う防犯のために設置する道路灯の建設事業に要する経費に対する補助 【丸子地域】840千円 *補助率1/2以内(上限30,000円)H20～全地域統一	840
防犯灯電気料金補助金	市民生活課	自治会が行う防犯のために設置する道路灯の電気料に対する補助 【丸子地域】3,980千円 *補助率1/2以内(H20～全地域統一)	3,980
一般廃棄物処理業等合理化事業	市民生活課	下水道の整備等により、業務の縮小又は廃止を余儀なくされるし尿・浄化槽汚泥収集運搬業者に対して交付金を交付し、収集運搬車を減車する。 【丸子地域】2台	40,000
市営住宅棟解体工事	市民生活課	旧市営住宅の解体 【丸子地域】対象団地:旧海戸団地	11,000
丸子福祉センター等管理運営事業	健康福祉課	長瀬市民センターの管理運営委託料・社会福祉協議会へ委託 丸子福祉センターの管理運営経費 4,399千円 14,551千円	18,950
丸子老人福祉センター運営費補助金	健康福祉課	運営費の助成(社協所有施設) ・社会福祉協議会への補助金(上田市長瀬地区[愛称たんぼぼ])	13,021
地域子育て支援センター事業	健康福祉課	地域子育て支援拠点事業(県2/3)【丸子地域】3施設 ・<補助対象施設>中丸子子育て支援センター(週5日、5時間) 丸子子育てサロン[ひろば3日型](週3日、5時間) <単独施設> 西内子育て支援センター(週3日、5時間)	2,678
丸子保健センター管理事業費	健康福祉課	丸子保健センター管理事業費	864

事業名	主務課	事業概要	予算計上額
生産調整推進事業交付金	産業観光課	個別所得補償モデル対策等に係る実施計画の集約、現地確認野帳簿作成など生産調整事務に対する交付金。 【丸子地域】3,050千円	3,050
畜産基地維持管理工事	産業観光課	陣場地区畜産基地立入防止柵設置工事、L = 380m	760
農産物直売加工施設「あさつゆ」増築工事	産業観光課	観光バスで立ち寄る観光客に対応するため、駐車場を増設する。・舗装工 A = 290m <sup>2</sup>	700
県単土地改良事業補助金	産業観光課	県単土地改良事業(水路改修等)に対する補助 【丸子地域】3,000千円	3,000
県営土地改良事業負担金	産業観光課	県が事業主体となり実施する農道・用排水路・ため池等土地改良施設の整備に対する負担。 【丸子地域】 ・ため池等整備事業(北原大池) 6,300千円 ・かんがい排水事業(塩川地区) 2,363千円 ・特定農業用管水路等整備事業(尾野山地区) 7,500千円 ・中山間総合整備事業(内村地区) 34,938千円 ・中山間地域総合農地防災事業(藤原田地区) 4,500千円	55,601
市営土地改良事業補助金	産業観光課	市で行う農道整備、水路改修等に係る工事及び自治会、水利組合等で行う農道整備、水路改修等に係る補助等関係経費。 【丸子地域】4,700千円	4,700
農地保全対策事業	産業観光課	市で行う農道整備、水路改修等に係る事業費及び関係経費。 【丸子地域】24,259千円	24,259
電源立地地域対策交付金事業	産業観光課	発電所の影響を受ける郷仕川原地区の水路等の改修	5,500
農地・水・農村環境保全向上活動支援事業	産業観光課	地域の農地・水・農村環境の保全と質的向上を図るために行う、地域ぐるみの活動を支援する。 【丸子地域】2地区	684
農業用施設維持事業	産業観光課	自治会、水利組合等で行う農道整理、水利事業等に係る関係経費。 【丸子地域】1,800千円	1,800
土地改良区等経常経費補助金	産業観光課	改良区が管理する用水路は、防火用水や環境用水など多面的機能を有しており、住民の多くがその恩恵を受けていることから、農業用施設の管理団体である改良区に補助する。 ・1,010千円	1,010
有害鳥獣防除対策事業	産業観光課	農作物の鳥獣害被害防止対策に要する経費。 ・防護柵用原材料費 2,800千円 ・有害鳥獣駆除奨励金 1,200千円 ・有害鳥獣駆除対策事業補助金 防護柵設置等 1,562千円	6,176

事業名	主務課	事業概要	予算計上額
市有林整備事業	産業観光課	市有林の維持管理に要する経費 ・徐伐、間伐、枝打等6ha 他	4,110
森林整備推進事業	産業観光課	森林所有者等による森林整備の推進等に対する補助金及び交付金 ・地域活動支援84ha、流域育成林整備	1,270
松くい虫防除対策事業	産業観光課	松くい虫被害の拡大防止に要する経費 ・伐倒駆除、危険枯損木処理等委託 ・松林保護樹林帯造成事業補助 等	41,320
みどりの少年団活動事業補助金	産業観光課	自然に学び、地域のみどりを守る「みどりの少年団」に対して活動経費の一部を補助。 ・2団体 100千円	100
森林事業債務負担償還金	産業観光課	造林事業の借入金に対する償還金 【丸子地域】6件	2,698
林道整備・維持・治山事業	産業観光課	林道の整備、維持管理及び治山に係る工事費等 ・林道舗装改良等工事（所沢線ほか） 1,000千円 ・林道維持管理業務委託（地元自治会等） 1,900千円 ・土砂流出防止応急工事 250千円 ・林道補修用原材料費 1,010千円	4,234
中心商店街空き店舗活用補助金 (魅力ある商店街づくり事業)	産業観光課	中心商店街の活性化を図るため、年間を通して商店会等が空き店舗を借上げ、催し等集人対策を実施するための賃貸料、改修費について助成する。 ・家賃助成率1/2以内 年額2,000千円限度 【丸子地域】500千円 ・改修費助成率1/3以内 3,000千円限度 【丸子地域】1000千円	1,500
丸子地域産業祭開催補助金	産業観光課	「げんき丸子産業フェスタ」開催補助	3,000
国際規格審査登録支援事業補助金	産業観光課	市内の中小企業が新規にISOの審査登録をするために要する経費に対し補助する。 ・登録経費の1/2以内 300千円限度 【丸子地域】 600千円	600
販路拡大支援事業補助金	産業観光課	中小製造業者等を支援するた、見本市等への出展経費の一部を補助する。 ・出展経費の1/2以内 100千円限度 【丸子地域】 8件	800
商工業団体育成事業	産業観光課	商工業団体等に対する補助金 【丸子地域】 ・上田市商工会補助金 18,043千円 ・丸子工業振興会補助金 300千円	18,343
観光宣伝事業	産業観光課	観光協会等負担金 【丸子地域】 ・丸子観光協会観光活性化事業負担金	6,050

事業名	主務課	事業概要	予算計上額
観光施設管理事業	産業観光課	観光施設管理委託料 【丸子地域】 ・丸子物産館管理運営委託 3,500千円 ・鹿教湯健康センター管理運営委託 25,903千円 ・鹿教湯温泉交流センター管理運営委託 2,000千円	31,403
観光施設整備事業	産業観光課	霊泉寺温泉湯ポンプ修繕	2,200
市民まつり等負担金	産業観光課	丸子ドドンコ実行委員会負担金 5,000千円 丸子納涼花火大会実行委員会負担金 500千円	5,500
交通安全施設整備事業	建設課	歩行者の安全確保のための整備に要する経費(交差点のカラー化及び歩行者帯、防護柵の設置等) <生活関連予算・単独事業> 【丸子地域】 4,000千円	4,000
道路整備事業負担金	建設課	兼用側溝整備事業負担金 【丸子地域】・丸子東部インター線他	2,000
道路維持事業	建設課	市内の道路維持に要する経費(舗装修繕、側溝補修、除融雪等) <生活関連予算・単独事業> 【丸子地域】 市道維持補修工事、原材料支給等 46,600千円 市道維持管理委託料等 6,100千円 除融雪事業(融雪剤散布・除雪委託等) 17,900千円	70,600
市道新設改良事業	建設課	市道の新設及び改良に要する経費 <地域活力基盤創造交付金事業> 【丸子地域】 丸子北御牧線(H18～22、L=6,600m、W=6.0m) ・工事 L=250m ・事務費 21,000千円 <地方特定道路整備事業> 【丸子地域】 中丸子22号線(H21～26、L=130m、W=12.0m【両側2.5m】) ・設計及び用地測量・調査一式 5,000千円 <生活関連予算>	76,000
河川用悪水路改修事業	建設課	河川及び水路の改修に要する経費 <生活関連予算・単独事業> 【丸子地域】 3,000千円	3,000
河川用悪水路維持事業	建設課	河川及び水路の維持に要する経費(水路の補修及び土砂上げ等) <生活関連予算・単独事業> 【丸子地域】 1,000千円	1,000

事業名	主務課	事業概要	予算計上額
都市緑化推進事業	建設課	花、肥料、資材の支給により、住民との協働で花と緑のまちづくり事業を推進する。	4,302
都市公園整備事業	公園緑地課 (建設課)	都市公園の整備・新設に要する経費 <公園整備事業> 信州国際音楽村周辺公園整備事業(H16～22) ・委託(建築管理) ・工事 園地・駐車場 ・事務費	31,122
地籍調査事業	建設課	地籍調査を実施し、公図の修正、土地境界に関する紛争の防止を図る。 【丸子地域】0.21km <sup>2</sup>	8,805
廃止路線代替バス運行費補助金	地域交通政策課 (建設課)	生活路線の運行維持に対する補助金 【丸子地域】・丸子線・中山道線(東信観光バス) 9,824千円 ・西丸子線(上電バス) 8,198千円	18,022
上田市公共交通活性化協議会負担金	地域交通政策課 (建設課)	事業主体の協議会が「上田市公共交通活性化・再生総合事業」に基づいて行う実証運行等に対する負担金、貸付金 丸子地域循環バス(まりんこ号)実証運行(千曲バス)	15,367
消防団詰所整備事業	丸子消防課	分団の活動拠点となる詰所車庫を計画的に整備する。 【丸子地域】丸子第5分団詰所新築工事関係	28,000
消防施設整備事業 消火栓新設事業負担金	丸子消防課	消防水利の充実を図るため、消火栓を新設する。(市水) 【丸子地域】3基(西内、平井、飯沼)	3,219
耐震性貯水槽新設事業	丸子消防課	消防水利の充実を図るため、耐震性貯水槽(40m <sup>3</sup> )を新設する。 【丸子地域】1基(御嶽堂)	5,236
高校通学費補助事業	丸子学校教育課	高校通学費補助 【丸子地域】74人分	3,350
児童館運営事業	丸子学校教育課	児童館の運営。 ・指定管理者による運営。【丸子地域】1館	980
放課後児童クラブ運営事業	丸子学校教育課	児童クラブの運営。 ・指定管理者による運営。【丸子地域】4館	24,394
学校施設耐震補強	丸子学校教育課	小中学校耐震補強工事 【丸子地域】丸子中央小学校	31,811

事業名	主務課	事業概要	予算計上額
教育相談所運営事業	丸子学校教育課	ふれあい教室(丸子)の運営	867
小学校管理運営事業	丸子学校教育課	丸子中央小学校スクールバス運行委託	3,482
中学校管理運営事業	丸子学校教育課	丸子中学校スクールバス運行委託	17,000
青少年育成事業 青少年育成団体等助成事業	社会教育課	友好都市ブルームフィールド市郡との青少年派遣交流(毎年交互に中学生派遣交流を実施。H22は派遣) 丸子地域青少年健全育成事業	3,360
		3,024千円 336千円	
国際交流事業	社会教育課	世界各国から集まった若者が日本でホームステイして活動するワールドキャンパスインターナショナルの受け入れ 在住外国人が地域住民と交流する国際交流フェスティバルの開催。	1,492
人権教育推進事業	社会教育課	人権を考える市民の集い、丸子・武石 人権教育専門指導員、解放子ども会、同和集会所	5,440
丸子図書館整備事業	社会教育課	丸子新図書館整備事業 ・用地購入	191,959
文化財保護・修繕 【地域予算】	社会教育課	依水館施設修繕等 地域予算【丸子地域】	5,100
丸子郷土博物館管理運営事業	社会教育課	丸子郷土博物館の管理運営に要する経費	5,810
信州国際音楽村管理運営事業	社会教育課	信州国際音楽村の管理運営に要する経費 ・信州国際音楽村管理委託 ・信州国際音楽村運営費負担金 ・音楽の里づくり推進協議会補助金	30,660
		22,700千円 5,090千円 200千円	
各種大会等事業	社会教育課	各種スポーツ教室、大会等 ・信州爆水RUNin依田川 ・丸子駅伝大会	5,309
		3,000千円 398千円	
体育協会補助金	社会教育課	体育の振興を図るため、事業費に対して補助を行う。【丸子地域】	2,300

事業名	主務課	事業概要	予算計上額
丸子体育施設管理事業	社会教育課	丸子体育施設の管理運営に要する経費 ・受付業務委託 8,377千円 ・天下山マレットゴルフ場管理委託 5,400千円	33,112
依田窪プール管理運営事業	社会教育課	依田窪プールの管理運営に要する経費 ・依田窪プール管理委託 7,000千円 ・プールろ過タンク入替工事 9,000千円	18,209
公民館各種講座等事業	丸子公民館	高齢者学習活動推進事業等、生涯学習を推進する。 【丸子地域】 信州夏期大学、春秋学園、カルチャースクール	2,851
丸子公民館移転	丸子公民館	丸子公民館を丸子文化会館から丸子文化センターへ移転する際に要する経費。	6,564
丸子文化会館管理運営事業	丸子文化会館	丸子文化会館の管理運営に関する経費 ・自主文化事業開催委託(ウクライナ国立歌劇場管弦楽団、レニングラードサーカス)	58,317
丸子金子図書館管理運営事業	丸子金子図書館	丸子金子図書館の管理運営に要する経費	22,797
丸子学校給食センター管理運営事業	丸子学校給食センター	丸子地域の小中学校6校の給食の調理及び配送を行うための運営に要する経費 ・1日 約2,200食 ・年間給食日数 約200日	32,501
公共下水道事業	丸子上下水道課	公共下水道事業 ・管渠工事 公共丸子L = 4,993m、特環丸子L = 1,245m、特環西内L = 45m 計6,283m 368,695千円 ・西内浄化センター再構築 実施設計 34,000千円、工事業務委託 124,000千円	526,695
上水道事業	丸子上下水道課	下水道工事及び道路改良工事等に併せての老朽配水管の布設替 L = 3,050m : 139,947千円 浄水場及びポンプ施設の老朽施設整備 ・凝集剤変更に伴う設備改良 31,500千円 ・監視カメラ 1箇所 7,540千円、原水流量計 4,305千円、原水濁度計3,675千円	186,967



## 平成22年度 丸子地域協議会委員名簿

(敬称略)

役職名	氏名	自治会名	所属専門部会等		
			カネボウ食堂棟部会	防犯灯LED化部会	依田川 川-70外 実行委員会
会長	斉藤重一郎	西内			
副会長	北村好美	南方			
委員	生田淳一	西内			
委員	池内孝一	上長瀬			
委員	上原正志	八日町			
委員	内田弘子	腰越			
委員	倉沢史子	中丸子			
委員	上坂耕司	荻窪			
委員	佐藤誠一	中丸子			
委員	清水三枝	御嶽堂			
委員	関與康	狐塚			
委員	滝澤芳則	南方			
委員	中澤ゆかる	八日町			
委員	成澤啓輔	中丸子			
委員	松山慶子	中丸子			
委員	丸山かず子	下和子			
委員	宮下正明	下長瀬			
委員	村松正孝	下長瀬			
委員	山越健二	茂沢			
委員	横山智美	腰越			

## 文化の征服

「うちの地域局の玄関に、かまくらがあつたのを見ましたか」

岩谷寛さん(60)は、いきなり切り出した。横手市の増田地域協議会の会長である。

地域局とは、横手市役所の出先機関だ。2005年10月、8市町村の合併で発足した新市が、増田町役場など旧市町村役場を衣替えさせた。

その各地域局で2月、旧横手市の

かまくら行事に合わせて、かまくらが作られた。これを見た岩谷さんは「なぜ」という思いを隠せなかった。

横手式のかまくらだったからだ。

「増田には増田のかまくらがあるんです。これでは文化の押しつけだ」

増田式のかまくらは、積み上げた雪を横から掘る横手式と違って上から掘る。ぽっかりと空いた天井に屋根を作つて雪を載せるため、子供なら10人ほど入れる大きさになる。

旧増田町は商人や地主の町として古くから栄えた。秋田市に本店を置

く北都銀行は1895年、この町での創業だ。1643年から伝わるぼ

んでんまつり、大曲より歴史のある花火大会……、由緒ある行事がいく

つもある。岩谷さんには、そうした増田が、横手に文化的な征服を受け

つつあるように感じられる。「新市は、市民に同じ活動をやって

もらいたいのでしょう。でもやはり私達には違和感があるんです」

岩谷さんがそうした経験をするのは初めてではない。最初は「昭和合

併」だった。旧増田町は1955年、

増田町と西成瀬村の合併でできた。

西成瀬村は増田から少し山側に入った村で、岩谷さんはこちらの生まれ

だ。「ぼんでんも、花火も、実は増田の行事です。西成瀬の行事は増田

に潰されてしまった」。大が小の文化を飲み込む合併の構造が、なんともやり切れない。

岩谷さんが「一律」への違和感を覚えるのは、文化だけではない。住

民の意見反映システムにも同じような問題を感じている。

大合併だった新市は「住民の意見

検証!

市町村合併の現場を歩く——再編は自治になにをもたらしたのか

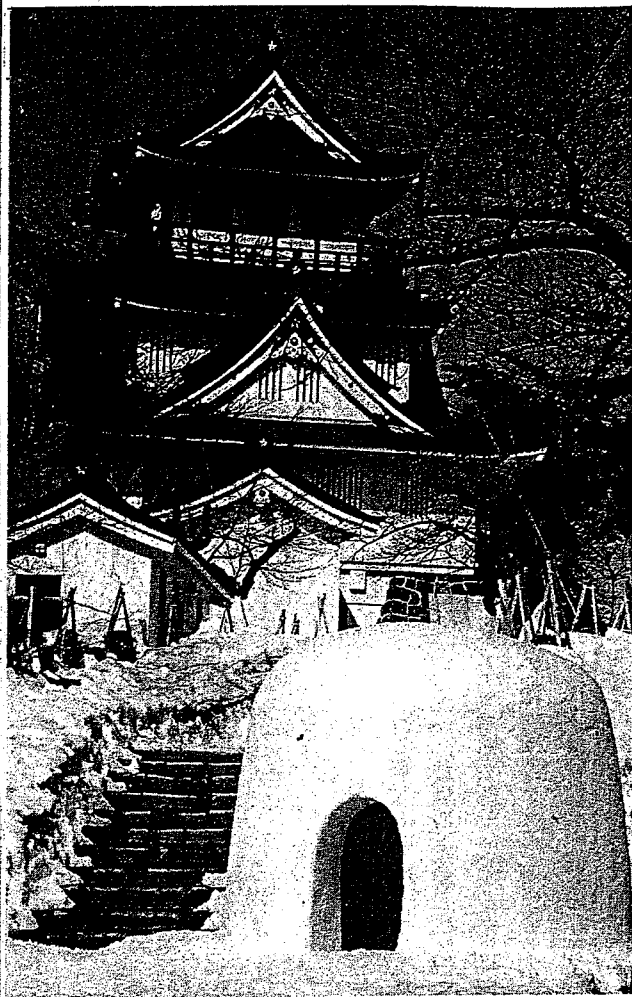
第60回(最終回)

# 「今度こそ」。5年目の再挑戦

## 地域自治区が消える・秋田県横手市の場合

「小さな自治」制度として案出され、法制化段階では「合併の不満のガス抜き」策とされた地域自治区。しかし実際には、小さな自治にも、ガス抜き策にもならなかった。この3月末で5年間の設置期限が切れた秋田県横手市では、そうした反省から独自の新制度を導入した。合併とは何か、自治とは何か、自問しながらの再挑戦が始まる。

地方自治ジャーナリスト  
葉上太郎



韓国ドラマで放映されて、外人観光客が増えたため、横手城には旧横手式のかまくらが作られていた(秋田県横手市)

が行政に届かなくなる」という不安解消のため、5年間に限って地域自治区を導入した。旧8市町村ごとに、特別職の区長を置き、各15人の委員で地域協議会を設けた。岩谷さんはその地域協議会の会長を務めた。

新市は、区長に旧市町村の元幹部職員らを任命し、政策会議のメンバーに入れて、地域の意見を反映させようと努めた。だが、岩谷さんには「区長には権限がない」としか思えなかった。地域協議会も「意見が届かなかった」と言う。

「地域協議会は、むしろ議会への言い訳に利用されてしまいました。市が議員に『既に地域協議会には了承をもらっている』と説明すれば、議員は引かざるを得ません。確かに市

は、計画などについて協議会で説明してくれました。でもいきなり言われて分かる委員はいません。だから『了承いただけませんか』と言われれば、誰も反対できなかった」

市も故意にそうしたのではないだろうが、結果的にそうなってしまう。これは横手市だけでなく、地域協議会を導入した多くの自治体で指摘されている問題である。

「それにたった15人の委員では、地域の声は吸い上げられませんでした」と、岩谷さんはため息をつく。

### 一制度か、多制度か

旧増田町には住民参加を促し、声を吸い上げる制度があった。

参加を促す仕組みは世代交流事業だ。これは旧町が約40の全集落に10万円ずつを配布し、集落ごとに自分達で考え実施してもらうイベントだった。「それはもう全員が参加して1日を過ごしていました」と岩谷さんは振り返る。これだと地域との付き合いが希薄なサラリーマンも出てくるので、全員が顔見知りになれた。言わば若手の地域デビューの役割も果たしていたのだ。集落はそうした絆を基にして運営された。

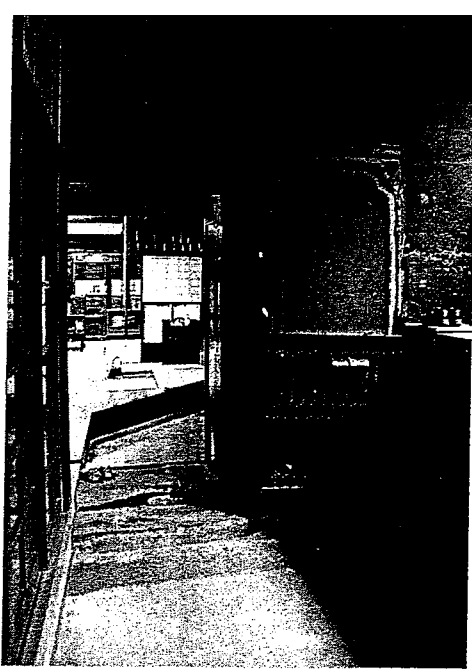
このような集落デビューや絆の強化は、もともと村祭や盆行事が自然発生的に担っていた。だが、そうした行事は「昭和」とともに廃れた。そこで旧町は代替機能として三世交代交流事業を始めた。元手は竹下登内閣のふるさと創生1億円だった。

ところが、この事業は新市の発足で廃止になった。もし続いていたとしても、各集落への10万円の補助は、飲食代に充てられていた部分があり、新市でどれだけ認められたか分からない。しながら、その飲食が集落の機能を維持させ、本来なら行政が行うことまで集落で助け合うきっかけになっていたとしたら、飲食の事業効果は単純な倫理観だけで批判されるべきではないのかもしれない。

一方、そうした集落から、声を拾って行政に届けていたのは、各地区で任命されていた行政協力員だ。毎年4月に全協力員が集まる会議は、さながら各地区の声を吸い上げる場のようなだった。ただし、この会議も合併後に廃止され、思い出したように09年度開催されただけだ。「協力員は今では行政からの配布物を配るだけになっています。地域局も知らない職員が増え、気軽に物を言える雰囲気はなくなりました。何かあれば要望書を出してくれと言われますが、私達のような田舎では『要望書を出すなんて』と尻込みする人が多い。結局、我慢してしまいい、不満だけがたまるのです」

協働の掛け声とは裏腹に、旧町村部では住民と行政の距離が開いているのが実情だろう。ただ、これも横手市だけの傾向ではない。しかし、そうした事態に陥らないための地域自治区のはずだった。「結局、上から持ってきたような制度では無理だったのです。旧自治体の制度を生かす選択はなかったのでしょうか。住民の声を行政に反映する仕組みは、全市一制度ではなく、一市多制度でも良かった」

協働の掛け声とは裏腹に、旧町村部では住民と行政の距離が開いているのが実情だろう。ただ、これも横手市だけの傾向ではない。しかし、そうした事態に陥らないための地域自治区のはずだった。「結局、上から持ってきたような制度では無理だったのです。旧自治体の制度を生かす選択はなかったのでしょうか。住民の声を行政に反映する仕組みは、全市一制度ではなく、一市多制度でも良かった」



生活空間になっている旧増田町の内蔵は、隠された地域の財産だ。新しい「地域づくり協議会」では、蔵を生かしたまちづくりが大きなテーマになるはずだ（秋田県横手市増田町）

岩谷さんはあえて辛口で指摘する。そんな増田地区も、消沈してばかりいたわけではない。

旧増田町は02年、旧町内四つの小学校を中心部の1校に統合した。この時、地域が廃れないようにと、校舎跡を地域センターにして、住民発議で地域づくりを進めてきた。▽中心部の増田地区は内蔵を中心に据えた伝統的な街並み保存▽岩谷さんの西成瀬地区は、旧銅鉱山や、旧小学校で100年間行われてきた標準語教育の資料収集▽農業が盛んな亀田地区は特産のリンゴを生かした戦略▽最奥の粗半内地区では、除雪でできる道路両脇の雪壁に延々とろうそくを灯したり、道路脇にコスモスを植えたりしている。これらは合併後

も続いており、今では新市の地域づくりのモデルになっている。

### 「づくり」協議会へ

もちろん新市も努力してきた。例えば、地域協議会とは別に設置した「地区会議」だ。これは旧増田町の地域センターなどをモデルにした住民自治組織で、おおむね小学校区ごとに36地区で設けている。市の諮問機関ではなく、「任意」の団体とされているので、委員も活動も住民が自由に決める。市は、ソフトとハードの2分野に分けて補助金を出しており、09年度のソフト事業の補助金は1地区約17万4000円だった（ハードは人口割などで配分）。

地域協議会についても、意見を事業に反映できるようにするため、8地域局に計1億円を配分してきた。だが、地域自治区は合併5年目の09年度で終わる。期限切れの後はどうするか。地区会議は、地域自治区とは別物であるため、そのまま続ける。自治区制度の区長は廃止

し、10年度から一般職員の地域局長が、新たに政策会議メンバーに加わる。地域協議会は各地区で存続の力が強かったため、ほぼ同じ形で残すことにした。ただし、運営は根本から変える考えだ。「行政が作った計画を承認するだけの組織だった」という批判に答えて、「今度は委員が提案内容を決め、行政はサポートに回ります」と、市経営企画課の森田東さんは話す。各地域局への配分額も計2億円と倍増させた。名称には「づくり」を入れて「地域づくり協議会」とし、今度こそ「地域づくり」で力を発揮できるようにと願いを込めた。

新協議会に対しては、既に意欲的な提案が出始めている。委員数は「自分達で決めたい」という声が目立つ協議会が相次ぎ、12〜18人の間で地域ごとに決めた。

### 新たな理想団を目指せ

この新しい協議会には、実はモデルがある。人口が約4000人と最も少ない旧山内村の地域協議会だ。諮問に答えるだけの地域協議会が多かった中で、山内では独自に地域課題を議論しては、地域局に意見書

を出し、委員自らも事業を主導して旧村全体を動かしてきた。

協議会長を務めた佐々木周一郎さん(70)は振り返る。

「市からの諮問には、当然答申しなければなりません。私達の頭を占めていたのは地域づくりでした。旧村内には特定の課題に取り組み団体はいくつもありました。でも地域のことを包括的に議論し、新しい方向性を探るような団体はありませんでした。ならばその役割を果たそうと考えたのです」

そこで協議会は、地域の課題を出し合うことから始めた。そして順番を決めて議論していった。

まず取り上げたのは、耕作放棄地が目立つ農業だった。これは委員の一人が中心になり最奥の集落で集落営農を始めることになった。

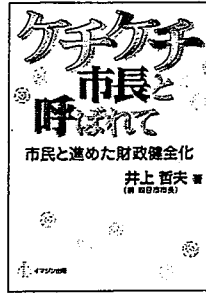
ダムの周辺整備で植えられた芝桜も復元することになった。かつては1haがじゅうたんのように咲き誇り、祭も行われていたのだが、04年頃から立ち枯れが目立つようになって、祭も中止されていた。

協議会は復元を住民の手で行うと決め、旧村を挙げた「さんない芝桜事業推進会議」を結成した。そして会長には佐々木さんが就任した。

最新刊

**ケチケチ市長と  
呼ばれて**

市民と進めた  
財政健全化



井上 哲夫 (前四日市市長) 著

■行政改革・情報公開・談合との闘い、四日市市財政健全化までの軌跡。  
■全国自治体や国の財政健全化の先駆けとして注目された「透明で健全な行政」づくりで、市民と変えた市役所。  
■3期12年の苦闘と喜びの総括。だれもが不安なこの時代に勇気をもらえぬ一冊。  
□A5判/180頁/定価1,575円(税込)

**危機管理  
マニュアル**

どう伝え合う  
コミュニケーション



吉川 肇子 (慶応義塾大学准教授)  
釘原 直樹 (大阪大学教授)  
岡本 真一郎 (愛知学院大学教授)  
中川 和之 (時事通信社) 著

■新型インフルエンザ・災害など危機の場面で何をどう伝えるのか。不安に応え、住民と克服するために自治体、医療・防災機関、企業必携のマニュアル  
□A5判/186頁/定価1,575円(税込)

自治体議会政策学会叢書  
**COPA BOOKS**

最新刊

**農業政策の  
変遷と自治体**

財政からみた  
農業再生への課題



石原 健二 (農学博士) 著

■日本農業の終焉か再生か、問われる国と自治体の取組み。戦前からの農業政策をひも解き、現状の問題点を指摘する。  
■豊富な統計資料で米政策・農業の公共事業・財政に関する政策を分かりやすく解説。  
□A5判/86頁/定価1,050円(税込)

お申し込みは **イマジン自治情報センター**  
〒102-0083 東京都千代田区麹町2-3麹町ガーデンビル  
TEL03(3221)9455 FAX03(3238)1019  
ホームページ <http://www.imagine-j.co.jp/>

07年度に着手した作業は、全面積の4分の3を地域局が担当し、4分の1は13の自治会で受け持つ協働方式だ。自治会は雑草の生え具合に合わせて、それぞれ日程を組み、全戸が参加する形で除草した。

そうした住民の動きに合わせて、地域局も独自の案を出した。芝桜を住民に配り、将来の復植で必要になる株を増やしてもらおうと考えたのだ。07年度は全1200戸に3株ずつを配り、08年度は13自治会に配布した。経費は、地域協議会の意見を反映させるために各地域局へ配分された計1億円の財源から充てた。

これまでの3年間で住民が行った除草は計387回、のべ6300人が参加した。芝桜は人の目が届くよ

うになると、みるみる復元し、祭の復活が検討できるまでになった。「江戸期の集落がルーツで、相互扶助の精神が残る自治会だからこそできたのです」と佐々木さんは言う。

地域協議会はさらに人材育成にも乗り出し、10年度から「山内地域づくり集団・人材養成事業」を始めることになった。これは新しい地域づくり協議会・地域局・公民館で行う共同事業で、若手10人を2年間で地域のリーダーに養成するという。プログラムはまだ模索中だが、自治制度や山内史の講義から、話し方・会議の進め方の演習まで予定している、かなり実践的だ。

「山内では第3代村長が、大正期に山内実業公民学校という独自の教育

機関を創設し、卒業生を山内理想団という組織に入れました。戦後の村づくりを担ったのは、そうした人々でした」と佐々木さんは話す。新たな理想団づくりとでも言える試みになるのだろうか。

ところで佐々木さんは、地域協議会で様々な議論を進めるうちに、あることに気づいた。

「これまでは頼めば役場がやる、事態が進まなければ議員に頼み、議員が駆けずり回る、それが地方自治だと私は思っていました。でもそれは地方自治ではなく、地方行政でしかありませんでした」

地域の課題を「から問い直していくうちに、「自治とは何か」という原点にたどり着いたのだ。その意味

では、山内ではこれからこそ本当の地域づくりが始まるのだろうか。

合併は単なる行政の線引きの変更ではない。自治体と自治体が結合することで、あらゆる局面がシャッフルされ、課題が持ち上がる。現時点では、どこの団体とも、問題の方が多いのが実情だ。小さかった方がより多くの悲哀を味わう傾向が強く、疲弊が一気に進んだ地区もある。

では、そこで諦めるか、前に進むのか、それは住民の選択である。もはや後戻りが許されないならば、そしてそのままにいたることが減びにしかつながらなければ、行き先は見えなくとも進むしかない。それが合併の現場を歩き続けてきた私の結論である。